



国指定史跡 真田氏上州の拠点

いわびつじょうあと

岩櫃城跡

東吾妻町
(一社) 東吾妻町観光協会



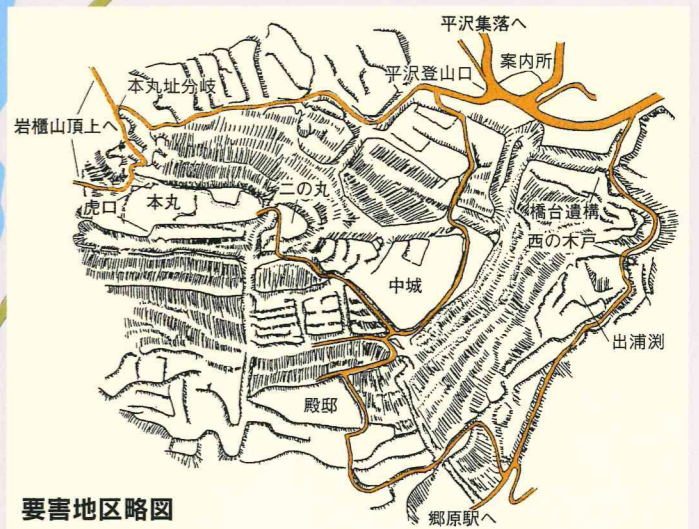
岩櫃城周辺図

令和元年10月16日、「岩櫃城跡」が国指定史跡に指定されました。今回指定される面積は、約21ha。城下町を取り込む規模が大きく複雑な縄張りは、武田氏、真田氏の領国支配の在り方や東国の戦国時代史を考える上でも極めて重要な城として評価されました。



東吾妻町観光・岩櫃関連
情報HP
岩櫃 IWAIBITSU
http://www.iwabitsu-sanadamaru.com/

岩櫃城跡
赤色立体図動画



岩櫃城は岩櫃山（標高 802.6 m）の中腹東面に築かれた中世の山城です。戦国時代から江戸時代初期の城跡で、武田氏の時代は上杉氏の侵攻に備える前線基地として機能し、真田氏の時代は上杉氏、後北条、徳川といった巨大勢力に挟まれた真田氏の領国経営の拠点として機能しました。頂上より約200 m下がった場所に本丸・二の丸・中城があり、この場所を中心に広い範囲を城域としています。また、近くに2つの支城、北東側に柳沢城と岩櫃山南側に郷原城を持っています。

通称番匠坂を東端とし、西側は本丸のある中心地から距離にして400 mほど行った所を端としています。この東西を両端とする北東方面へ1.9km 延びる尾根線上に主たる遺構があります。南側は切沢の谷を自然の堀にして南西の境とし、南東側は岩櫃山の山裾の斜面を壁面として、さらに吾妻川を自然の堀に活用したと考えられます。北側は不動沢が境界線となっています。

東吾妻町役場	〒377-0892 群馬県吾妻郡東吾妻町原町1046 TEL.0279-68-2111 FAX.0279-68-4900 https://www.town.higashiagatsuma.gunma.jp/
(一社) 東吾妻町観光協会	〒377-0801 群馬県吾妻郡東吾妻町原町627-2 TEL.0279-70-2110 FAX.0279-25-7135 http://www.tohgoku.or.jp/~aysk/
岩櫃山平沢登山口観光案内所	〒377-0801 群馬県吾妻郡東吾妻町原町1965-2 開所(4月~11月)

吾妻氏、武田氏、真田氏の歴史舞台。武田領内の三名城

戦国の歴史を刻む岩櫃城

群馬県の北西部に位置する吾妻の地は自然景勝に富み、多くの名所や旧跡が点在しています。東吾妻町の北にそびえる岩櫃山（標高八〇二・六メートル）は町を代表する景勝地の一つですが、その中腹には、吾妻の歴史舞台となった岩櫃城跡があります。岩櫃城跡には、曲輪や堀を設けた様子が現在でも保存されており、歴史的にも極めて重要な城と認められたことから、令和元年十月十六日に国指定史跡として登録されました。



岩櫃城の歴史

岩櫃城は、年代は定かではありませんが、南北朝のころ築城されたと考えられています。城郭の規模は一三六畝と上州最大規模を誇り、後に甲斐の岩殿城、駿河の久能城と並び武田領内の三名城と称されました。この城の城主として最初に名前が出てくるのが吾妻太郎行盛です。行盛は南北朝時代、南朝方の里見氏に攻められ吾妻川原において自害したという伝説があります。その後行盛の子千王丸（斉藤越前守憲行）が北朝方の上野守護上杉憲顕氏の支援によって岩櫃城を奪回し、その子孫が戦国時代までこの城を本拠として東吾妻を支配しました。

永禄六年（一五六三）、武田信玄は上州侵略のため、家臣真田幸隆に岩櫃城攻略を命じました。ときの城主は吾妻太郎行盛より数えて六代目の吾妻太郎斉藤越前守憲広（基国）といわれ、堅城を利して奮戦しましたが、ついに落城してしまいました。こうして岩櫃城は武田氏の手中に落ち、信玄は幸隆に吾妻郡の守護を命じました。

天正二年（一五七四）に幸隆が世を去り、岩櫃城主には長子の信綱が取りました。翌年、長篠の戦いで信綱、昌輝兄弟が戦死したため、真田家は幸隆の三男、昌幸が相続しました。その後、昌幸の長男信幸が支配し、信幸の弟幸村も少年時代をこの城で過ごしたと言われています。天正十八年（一五九〇）、北条氏が滅亡し、一度北条氏の支配下に置かれた沼田は再び真田氏の支配下となり、信幸は初代沼田城主となりました。岩櫃城は沼田の支城として吾妻郡統治の中心地としての役割を果たしました。

慶長五年（一六〇〇）、関ヶ原の戦いで昌幸（西軍）と信幸（東軍）は敵味方に分かれました。このとき岩櫃城は昌幸の叔父矢沢頼綱が城代となり、信幸方の城となっています。そして、幾多のドラマの舞台となった岩櫃城も徳川家康が発した一国一城令（元和元年（一六一五））により、四百余年の長い歴史を残し、その姿を消しました。



「本丸下堅堀」
本丸下に延びる長大な堅堀。幅も広く、規模の大きさが伺える。



本丸下の鉤の手状に折れる堅堀。折れを設けることで高い防御力を有する。



「東の木戸」
西の木戸と対応し、城下町の東端を固めていた。



「上州我妻郡岩櫃古城之図」
（長野県立歴史館所蔵）
このほかに西面図があり、岩櫃城に関する文献資料としては極めて少ない中の一つ。



岩櫃城本丸址
標高 593m に立地する東西約 140m、南北約 35m の主郭を中心として、岩櫃山から東へ延びる 4 本の尾根上に、広域的に曲輪を配置するなど、その規模は群馬県内の中世城館でも最大規模を誇る。25m × 15m の建物の土台状の遺構があり、展望台、指揮台を兼ねての中樞部と考えられている。

岩櫃城落城伝説

貞和五年（一三四九）、ときの城主は吾妻太郎行盛、敵は里見義時（兵庫ともいう）。要害の地を利用し難攻不落といわれた名城岩櫃城、しかも岩の上からは水が滝となって流れ落ち、城中の水は十分と思われていました。そこで里見は水口を断とうと里人を味方に付け、水口を奪取、落城は時間の問題となりました。このときの滝は米を落として滝に見せかけ



長福寺の五輪塔
中央が吾妻太郎の墓で両隣が夫人と臣下の墓とされている。

岩櫃城破却

岩櫃城が壊されたのは一国一城令によるところが大きいと考えられますが、江戸時代の文献によると、慶長十九年（一六四四）に城下の平川戸（現在の登山口付近から貯水池付近）に市が立ち、多くの人出があつたことを徳川家康が不審に



「榎の木から子持岩を望む」
原町市街から子持岩がまっすぐに見通せ、榎の木とを結んだ直線を町割りの起点としたことがよくうかがえる。

ていたと言われています。もはやこれまでも……と行盛は討って出、東側斜面を下り、敵陣を突破し、吾妻川立石河原へ出ました。行盛は大石にとび上がり腹をかつき切り立原河原の露と消えました。このとき自らの首を切り、対岸めがけて投げつけました。その首を祀ったのが首宮明神（現在の川戸神社）で、岩井地区にある長

思ったことを知った真田信幸は、岩櫃城を壊し城下町を観音原（現在の原町）に移転したといわれています。このとき町割りの起点を原町の東端にある「榎の木（原町の大ケヤキ）（国天然記念物）」と岩櫃山中腹の子持岩を結んだ直線としたといわれています。

武田勝頼を迎えようとした御殿跡（潜龍院跡）

天正十年（一五八二）三月、武田勝頼は織田・徳川の連合軍に攻められていました。軍議の席上、真田昌幸は岩櫃城に勝頼を迎え入れ、武田の再挙を図ることを提案して許されました。昌幸は急ぎ帰国し、岩櫃山の南側に勝頼を迎えるための御殿（赤岩登山口近くに潜龍院跡として残っています）を三日間で造りました。しかし、勝頼は吾妻の地に來ることかな

わず天目山で自刃してしまいました。このときに勝頼が吾妻に赴いていたならば、岩櫃城は戦乱の舞台として時代の中心的立場に置かれていたことも十分に推測されます。急造された御殿は昌幸の一族である根津潜龍院と称して明治にいたり、明治十七年にその護摩堂が原町頭徳寺の本堂となっています。



潜龍院跡



頭徳寺本堂
現在の本堂は一部修復してあるが、明治当時のもの。